

# 倉庫間の情報連携強化による出荷作業待ち時間削減 三重県

## 1. 実施者の概要

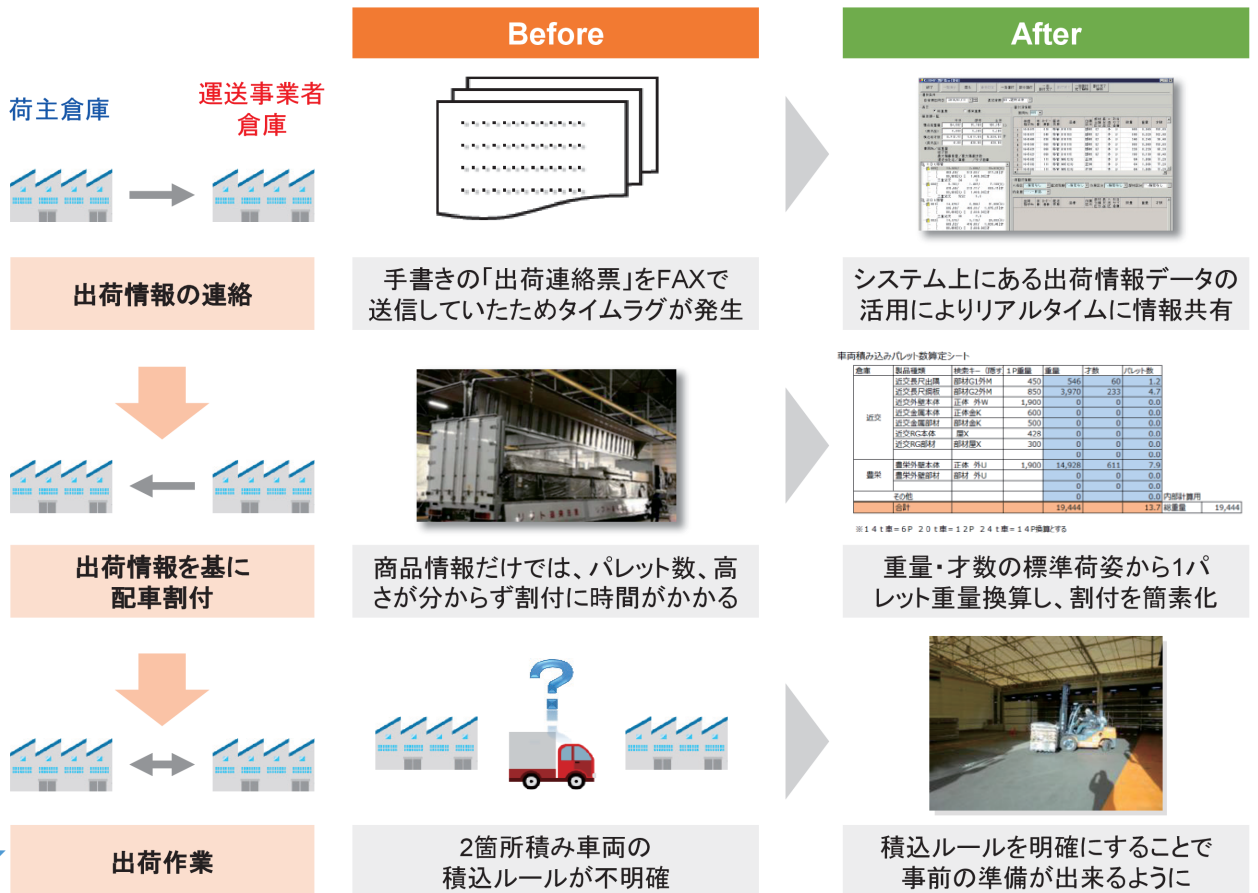
- 荷主企業(発荷主): ケイミュー(株)伊賀事業所、本社: 大阪府大阪市  
外壁材、屋根材の製造  
(着荷主): 代理店、工務店、住宅メーカーなど不特定多数
- 運送事業者: 滋賀近交運輸倉庫(株)三重支店、本社: 滋賀県長浜市  
勢州運輸(有)、本社: 三重県四日市
- 荷役作業: 豊栄物流(有)、本社: 三重県亀山市
- 荷種  
外壁材、屋根材

## 2. 事業概要

### 重要課題と課題解決に向けた取り組み

発荷主と運送事業者がそれぞれ倉庫を保有しているため、商品の出荷において両倉庫の迅速な情報連携が必要不可欠

出荷情報確定から出荷作業開始までの流れ



### 取り組みの成果

部分的な作業時間の短縮や一部の便の前倒しはできたが、  
全体的な出荷時刻の早期化にまでは至っていない

### 3. 課題

- 発荷主と運送事業者がそれぞれ倉庫を保有しており、両倉庫での積込が必要な便があるため、お互いの密な情報連携が必要不可欠。その中で、3つの課題を抽出した。
  - ① 出荷情報の連絡手段が手書きの「出荷連絡票」のFAX送付であったため、発荷主が出荷情報を取得してから、運送事業者に伝達されるまでにタイムラグが生じていた。
  - ② 運送事業者の配車部門では、輸送部材の商品情報は把握しているが、どのような荷姿で積み込まれるのかがすぐに分からないため、配車割付に時間を要していた。
  - ③ 両倉庫での積込みが必要な際、どちらに商品を横持ちするか等のルールが無かった。

### 4. 事業内容

- ① **出荷情報連絡の電子化**：手書きの「出荷連絡票」を廃止し、システム上にある出荷情報データをそのまま貼り付ける仕様に変更する。
- ② **荷姿パターン化による配車割付の簡素化**：2017年10月下旬～2017年11月中旬の2週間、便を限定して取り組みを実施。重量・才数の標準荷姿から1P重量を換算し、換算値を基に簡易的に配車割付がおこなえるようにする。
- ③ **2箇所積み車両の積込ルール**：2018年1月中旬に両倉庫担当者間の電話連絡を廃止し、システムから出力される専用伝票方式に変更する。

### 5. 結果

- ① **出荷情報連絡の電子化**：出荷情報として必要十分な情報を吟味検討している。システム開発に正式に着手しており、完成は2018年3月を予定している。
- ② **荷姿パターン化による配車割付の簡素化**：部材別の荷姿データを収集・整理し、標準的な荷姿をパターン化。その結果、割付時間を短縮することができた。現在は便を限定しているが、徐々に適用範囲を拡げていき、全拠点展開を見込んでいる。
- ③ **2箇所積み車両の積込ルール**：現在は積込ルールも定着している。パレット数や荷物の詳細情報を事前把握することが可能となり、どちらに横持ちするか判断だけでなく、前もって作業スペースを確保できるなど、段取と積込が容易になった。

### 6. 荷主企業のメリット

- 両倉庫の情報連携が迅速になることで、発荷主の倉庫における作業者の待ち時間が削減される。

### 7. 結果に結びついたポイント

- まず始めに供給プロセス全体のフロー図を示しながら、どこにどのような課題を抱えているかを実施者の中で洗い出し、共通認識を持つようにした。全体を俯瞰することで、重要且つ、比較的取り組み易い課題を選定することができた。
- 発荷主の物流効率化に対する意識は以前より高く、「荷姿パターン化による配車割付の簡素化」についてはこれまでも構想したことがあったとのこと。今回、発荷主と運送事業者が一堂に会する場をつくったことが1つのきっかけとなった。